

「25条集会」に参加された方の感想文を紹介します(㊟)。

深田 利夫 (65才・東区)



36年ぶりに飛行機に乗って、東京に行って生活保護裁判のことを訴

えることが出来て、たいへんよかったです。全国的な集会に参加するのははじめて、車いすの人、いろんな人があんなにたくさん集まって、ビックリ。北海道から参加した裁判の原告は、壇上にあがって訴えることが出来、集会全体の様子も見ることが出来た。共産党の小池議員が「裁判はかつためにやらなくてはいいけない。最後までがんばって下さい」とあいさつされ、励まされた。

パレードでも、北海道からの参加者は途中までの参加だったが、だせない声を張り上げて、いろんなよびかけをした。みんなであいっしょにやっているというの、とても心強く感じた。

疲れたけれど、すべてが素晴らしい集会、パレードで、色々勉強になりました。

裁判に勝つために、私はこれからがんばります。

桜井 美香 (35才・手稲区)



私の35年の人生と生活保護の話が、私と同じように保護を利用して

いる人に役立てて嬉しかったです。今、みんなで頑張っていることが、国会の議員の人たちにも話が行き届いてよかったです。冬は寒いので、冬季加算が減るととっても大変です。今年の冬をどう乗り越えていくかを心配しながら頑張っていると思っています。冬は、私の場合はすぐ体調が悪くなるので、国の人たちにももうちょっと理解してもらいたいです。

岡崎 恵治 (56才・道本部班)

日本の社会保障運動史上初めての憲法「25条大集会」の成功



を目の当たりにすることができ、大変光栄です。尾藤弁護士、基調報告で、「年

金生活者も最賃以下で働く労働者も、『健康で文化的な最低限度の生活の保障』を求めて、立ちあがる時です。その先頭を行くのが生活保護利用者による審査請求運動と裁判闘争です！」と述べたところには、本当に感動しました。全生連は、数年前から取り組む署名項目にそうした内容が反映されていました。ボクは、挨拶など話をする機会があると、その先駆性を強調していましたが、あらためて全生連運動が懐の深い運動をしていることに確信を持ちました。

新千歳からの列車の中で、メンタルの病気を持っている方が数人で集会の感想をだしあっていました。

「ステージの裏で待っている時、山本太郎さんが近くに来てカッコよかった。参



## ふくしの窓

<2015年11月24日 第973号>

北海道生活と健康を守る会連合会(道生連)

札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

☎ (011) 736-1722

FAX (011) 736-1688

メールアドレス: doseiren@joy.ocn.ne.jp

加して感激して気持ちが高まりました。何日か眠れないかもしれない。来てよかった」

「パレードするのに会場外に出たら機動隊が一杯いて、このまま護送車に乗せられるのかとドキドキした。パレードは大きな声を出して気持ちよかった」

「各分野の発表で最後に作業者で働く知的障害者が実情を訴えていたけど、当事者が大きな集いに堂々と参加する時代になったんだと感激した」などと会話していました。

参加した方々には間違いなく、自信と確信になったのだ！と嬉しくなる光景でした。